

公害教育の ESD 化 ～大気汚染公害を題材として～

イベントの 延べ参加者数	740 人
大学での試作教 材実践	399 人
活動の全体目標 に対する達成度	40%



社会課題に向き合う姿勢を公害経験から学ぶ

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 試作教材は、のべ 510 人を対象に実践。次年度に全国集会での発表や教員研修の依頼を受けている。西淀川公害の現地に福島原発事故被災者を招き、参加型プログラムで学びあうことで、未来に向けてエンパワメントされた。
- 工夫** 社会課題に関心の高い層の集まる教育集会等で教材を紹介し、潜在的な公害教育のニーズを掘り起こした。

課 題

これまでの公害教育は、被害地域の問題として展開されることが多く、また被害状況など起きた事実を「正しく」伝える知識偏重型の教育で、ESD とは、ほど遠く広がりにつける。

活動内容

公害の経験を、「今」の視点から ESD として展開する。そのために人権教育・開発教育・市民性教育などの分野の視点を取り入れて、参加型アクティビティ及びプログラムを開発・試作した。さらに、それぞれの分野の研究会や教育現場で実践し、フィードバックを受け改訂を重ねた。また福島原発事故を受け、新たに高まっている「公害から学ぶ」ニーズを把握し、プログラムを試行。福島の大学生とともに「公害から学ぶ」意義を検討した。



公害から学び未来を変えていく
重要性を実感

今後の課題

プログラムの完成と普及。公害の被害を「正しく」伝えることを重視する当事者に ESD の意義を伝え、語り部頼りの公害教育からの脱却を促す。喫緊の課題として、公害に直面している海外や福島の人びとの要望に応える。